

# U.S. Indicators

発表日: 2019年4月3日(水)

## 米国 19年2月耐久財受注は鈍化傾向持続

～機械設備投資は年半ばにかけて減速へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (TEL: 03-5221-5001)

	耐久財受注											
	出荷				受注				在庫			
	除く輸送機器			非国防資本財 除く航空機	除く輸送機器			非国防資本財 除く航空機	除く輸送機器			非国防資本財 除く航空機
18/05	+0.2	+0.5	(+7.7)	+0.1	▲0.3	+0.3	(+8.3)	+0.7	+0.3	+0.4	+0.4	
18/06	+1.7	+0.4	(+7.9)	+1.0	+0.9	+0.3	(+8.9)	+0.8	+0.0	+0.7	+0.4	
18/07	▲0.1	+0.6	(+8.6)	+1.2	▲1.2	+0.2	(+8.1)	+1.5	+1.3	+0.3	+0.2	
18/08	+0.9	+0.1	(+7.3)	▲0.1	+4.7	+0.3	(+7.6)	▲0.2	▲0.2	+0.4	+0.5	
18/09	+0.9	▲0.1	(+6.1)	▲0.3	▲0.0	▲0.5	(+5.2)	▲0.6	+0.8	+0.7	+1.0	
18/10	▲0.3	+0.4	(+5.6)	+0.8	▲4.3	+0.4	(+4.8)	+0.5	+0.2	+0.2	+0.2	
18/11	+1.0	+0.2	(+4.8)	▲0.2	+0.9	▲0.2	(+5.0)	▲1.1	+0.5	+0.6	+0.5	
18/12	+0.7	+0.2	(+4.2)	+0.1	+1.3	+0.3	(+3.7)	▲0.8	+0.3	+0.5	+0.7	
19/01	▲0.4	+0.1	(+4.4)	+1.0	+0.1	▲0.1	(+4.6)	+0.9	+0.5	+0.3	+0.5	
19/02	+0.2	+0.5	(+3.9)	▲0.0	▲1.6	+0.1	(+3.3)	▲0.1	+0.3	▲0.0	+0.0	

19年2月の耐久財受注は、民間航空機の落ち込みによって前月比▲1.6%（前月同+0.1%）と減少に転じた。市場予想コンセンサスの同▲1.8%を上回ったものの、1月分が0.2%p下方修正されていることから予想通りの動き。また、変動の大きい輸送機器を除いた耐久財受注は、前月比+0.1%（前月同▲0.1%）と市場予想コンセンサスと一致したが、1月分が0.1%p下方改定されており、実態は市場予想よりも弱い。世界経済の減速や米中貿易戦争による不透明感の強まり等によって、耐久財受注は停滞している。

業種別では、一次金属、加工金属が増加に転じたほか、電気機械関連が拡大基調を維持した。一方、一般機械、輸送機器、その他耐久財が減少に転じたうえ、コンピューター・電子製品関連が減少を続けた。規模の最も大きい輸送機器では、軍用航空機が高い伸びを維持した一方、自動車が増加を続け、民間航空機が大幅な減少となった。

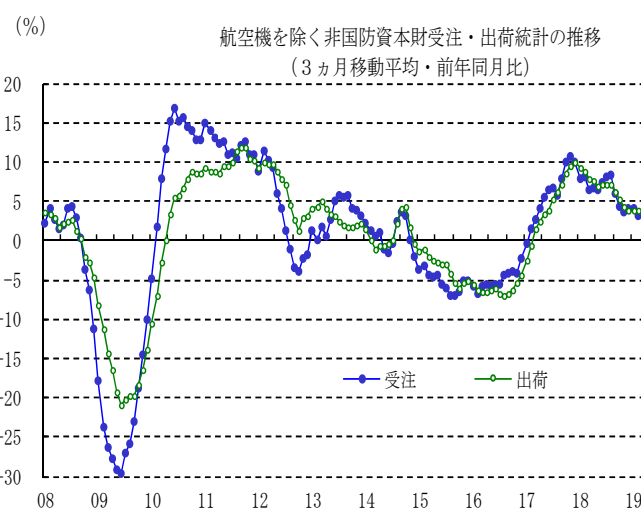
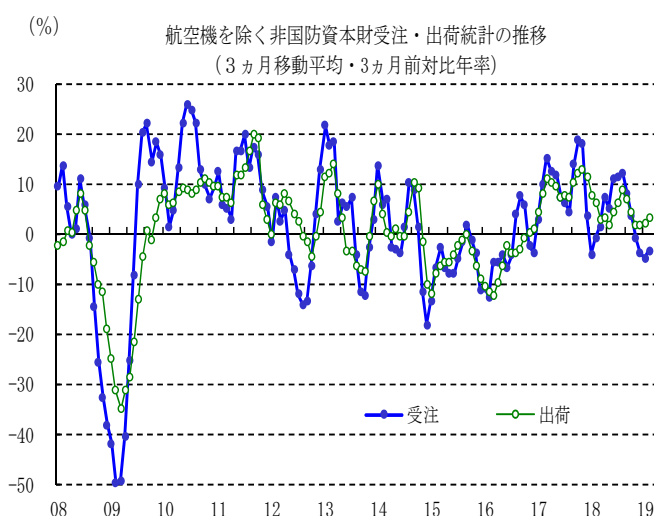
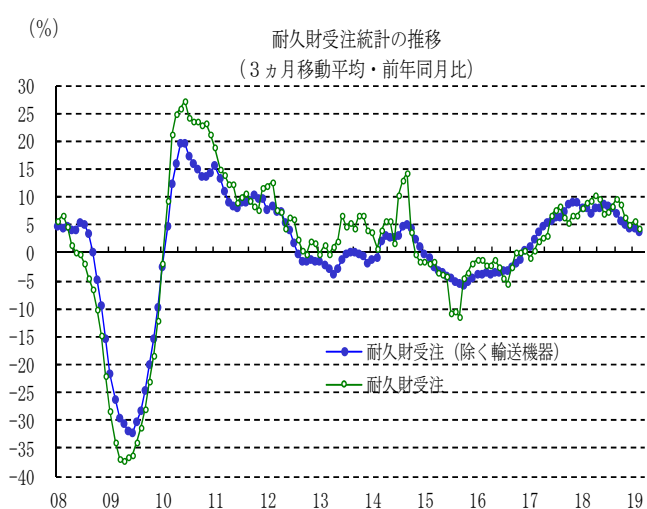
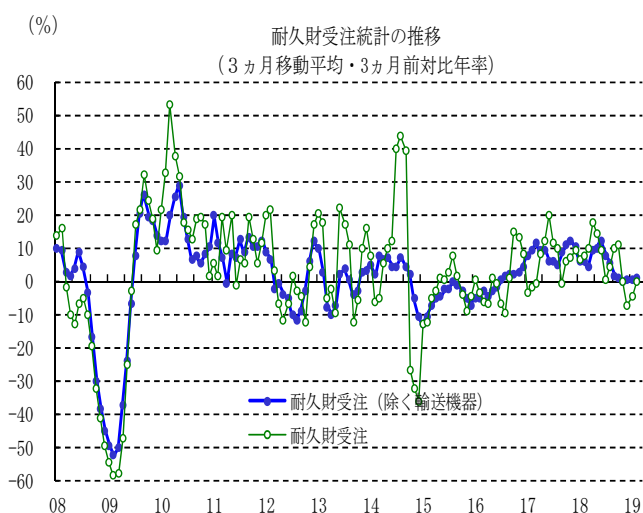
3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、2月の耐久財受注が▲0.3%（前月▲4.6%）とマイナス幅を縮小し、基調を示す輸送機器を除く耐久財受注は+1.0%（前月+0.1%）と加速しており、耐久財受注の持ち直しを示唆している。

前年比では、1-2月期の耐久財受注は+4.4%（1月+8.2%）、輸送機器を除く耐久財受注が+3.2%（+4.6%）と拡大ペースは鈍化している。業種別の伸び率を高い順にみると、軍用航空機が+32.7%（+42.2%）、自動車・同部品が+9.3%（+8.1%）、加工金属が+5.6%（+5.6%）、電気機械・同部品が+4.8%（+6.3%）、コンピューター・電子製品関連が+4.7%（+5.2%）、一次金属が+4.7%（+4.7%）、一般機械が+1.8%（+3.0%）と続いた。一方、民間航空機は▲1.6%（+60.5%）と減少に転じた。

設備投資関連では、機械設備投資の一致指標である非国防資本財出荷（除く航空機）が2月に前月比▲0.0%（前月同+1.0%）と市場予想の同▲0.1%を上回ったうえ、12、1月合計で+0.2%p上方改定された。また、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+5.5%（前月+4.1%）と加速したうえ、1、2

月期でも10-12月期対比年率+3.8%と10-12月期の前期比年率+1.6%から加速していることから、1-3月期の機械設備投資の加速を示唆している。

ただし、機械設備投資の先行指標である非国防資本財受注（除く航空機）は、2月に前月比▲0.1%（前月同+0.9%）と市場予想の同+0.1%を下回った（12、1月0.1%p上方改定）。また、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で▲3.4%（前月▲4.9%）と減少を続け、1、2月期でも10-12月期対比年率▲0.4%と10-12月期の前期比年率▲3.8%減少しており、先行きの機械設備投資の減速を示唆している。トランプ政権の通商政策に対する不透明感の高まり、世界経済の減速などを受け、19年半ばにかけて機械設備投資が減速すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。